

日本最古の植物化石の発見について

3月25日、静岡大学、北海道大学及び熊本大学から、「岩手県から日本最古の植物化石を発見」とするプレスリリースが別添のとおりありましたので、お知らせします。

< 概要 >

大船渡市日頃市町樋口沢周辺の中里層とよばれる化石産地（古生代前期デボン紀 約4.1-3.9億年前）から、日本最古となる植物化石（ヒカゲノカズラ類などの孢子化石）が発見されました。

これまで日本最古の植物化石は、岩手県釜石市、福島県、岐阜県、熊本県の後期デボン紀（約3.8-3.6億年前）のものと考えられていましたが、今回の発見により約1000万年以上遡りました。

これまで国内ではリンボクのような大型植物化石が主に見つかっていましたが、今回は、植物本体ではなく、孢子化石群集の発見です。この孢子化石群集の解析から、当時の日本に原始的な維管束植物※からなる“草原”が広がっていたことが初めてわかりました。

前期デボン紀は、世界的にみて植物が爆発的に多様化した時代だと考えられています。日本を含むアジアでは、この時代の植物に関する調査記録が少なく、本研究の成果は植物の歴史を復元する上で極めて重要です。

また、今回の孢子化石の中には、南中国の同時期の地層から報告された種が多数ありました。このことは、当時の東北日本が南中国の近くにあったことを示唆します。

※維管束植物

シダ植物や現代の植物の大半が属しています。これに当てはまらないものはコケ類やワカメなどの藻類です。